

釈迦ヶ岳 (1800m) (ハイライトシーン) [※ 実施日—2021年6月22日(火)]



※ 弥生班 計8名 (弥生班6名 他班2名)

① (8:40—登山口にて)



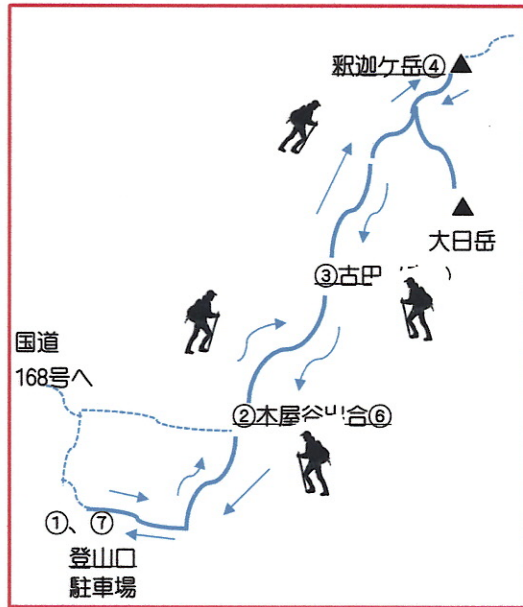
② (8:50 出発進行)



③ (貫禄あるメンバー)



(釈迦ヶ岳のロードマップ)



④ (大日岳をバックに)



⑨ (バイケイソウ)



⑤ (釈迦ヶ岳をバックに)



⑩ (ドウダンツツジ)



⑧ (ランチタイム)



⑥ (10:30—古田ノ森で小休止)



⑪ (アセビ—馬酔木)



⑦ (11:45—釈迦ヶ岳の山頂)



⑫ (鹿と遭遇)



⑬ (14:45—無事下山しバンザイ)



釈迦ヶ岳 (1800m)

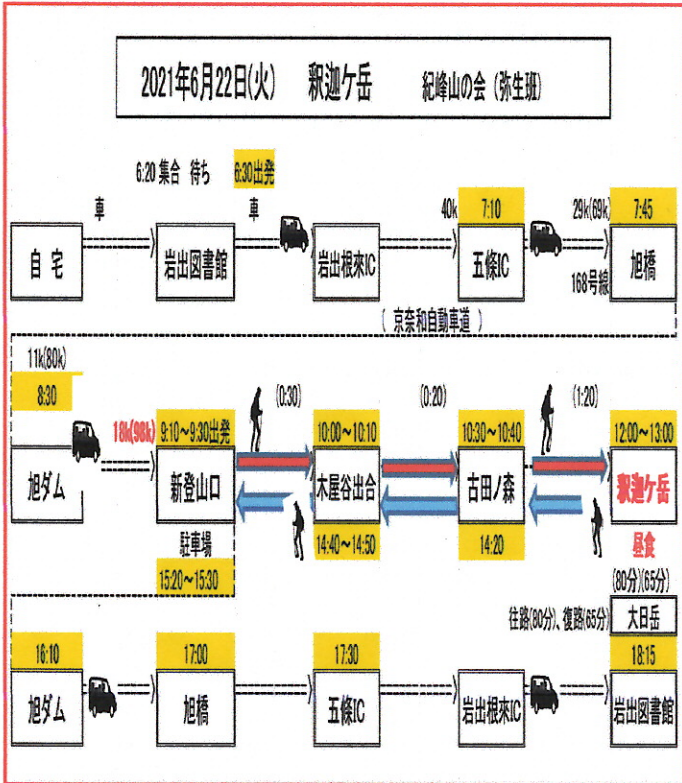
紀峰山の会 (弥生班)

※(山行日) 2021年6月22日(火)

(メンバー) ---計8名 (弥生班6名、他班2名)

※(行程) [予定]

※(行程) [結果]



(往路---車移動)

- 岩出図書館 (出発) 6:30
- 駐車場 (到着) 8:40

(山行)

- ① 太尾登山口 8:50
- ② 木屋谷出合 10:00
- ③ 古田ノ森 10:30
- ④ 釈迦ヶ岳 11:45

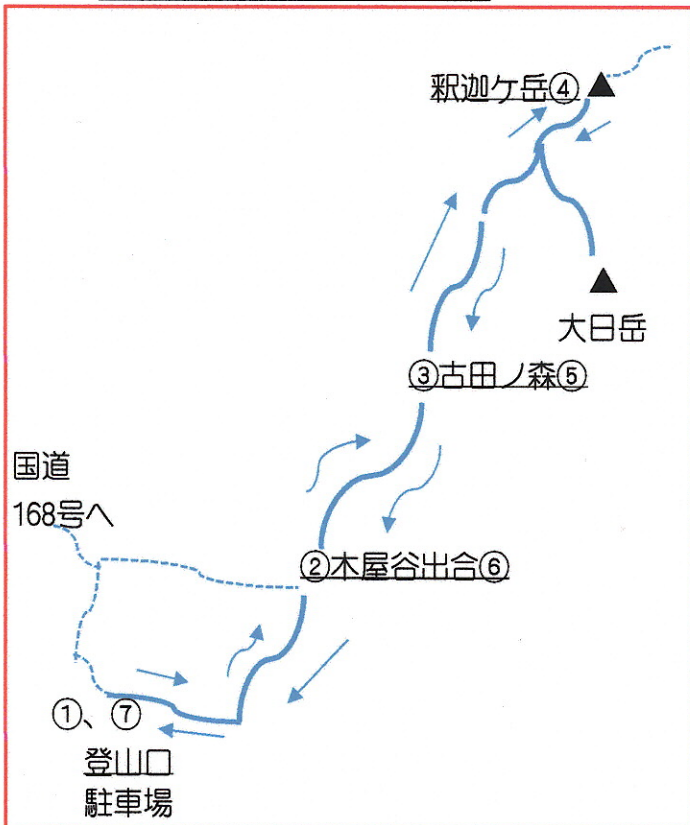
(昼食)

- ⑤ 古田ノ森 13:30
- ⑥ 木屋谷出合 14:00
- ⑦ 太尾登山口 14:45

(帰路---車移動)

- 駐車場 (出発) 15:00
- 岩出図書館跡資館 (到着) 17:40

(釈迦ヶ岳のロードマップ)



※[はじめに]

・釈迦ヶ岳は、釈迦如来を山頂あるいは山麓に祀った事に由来する名称の山で、調べると全国で7カ所ありました。

1. 釈迦ヶ岳(奈良県)---大峰山系 1800m
2. 釈迦ヶ岳(栃木県)---高原系 1795m
3. 釈迦ヶ岳(山梨県)---御坂山地 1641m
4. 釈迦ヶ岳(山梨県)--- 1271m
5. 釈迦ヶ岳(滋賀県)---鈴鹿山脈 1092m
6. 釈迦ヶ岳(福岡県)--- 844m
7. 釈迦ヶ岳(宮崎県)--- 831m

更に、釈迦ヶ岳の名称では、4カ所ありました。

今回は奈良県大峰山系の釈迦ヶ岳の山行である。

- ・世界遺産となった修験道「大峯奥駈道」を一部通るルートで、山頂にはシンボルの釈迦如来像がある。
- ・釈迦如来像は、大正13年に強力が一人で担ぎ上げたとのこと。----- (ほんとかな〜あ?)

- ・昨年も釈迦ヶ岳に山行しており、前回は鹿の親子が出迎えてくれた。さて、今回の山行では-----?

テーマは、

「自然を満喫し己を悟ろう」 いざ出発!!

(写真1) (太尾登山口にて)



- ・ 2日前までの天気予報では、曇りのち雨であったが、当日の朝は晴れており、山行を実行することになった。
- ・ 和歌山を6時30分に出発し、太尾駐車場へは、8時40分到着。
- ・ 本日は、2男6女の山行。まずは、記念撮影。

(写真4) (貫禄のある女性メンバー)



- ・ 山行中は、ほぼこの順番で進行。

(写真2) (いざ出発)



- ・ 8時50分、釈迦ヶ岳に向けていざ出発進行。

(写真5) (予報に反し午前中は天気よし)



- ・ 男性は後列で見守り、おとなしく進行?

(写真3) (軽やかに進行)



- ・ 心地よい空気と新緑で、軽やかに足が進む。

(写真6) (自然を満喫)



- ・ 植物や野鳥を楽しみながら、進行

(写真7) (大日岳をバックに)



- ・ 視界が開け、大日岳が見えてきた。
今回は、大日岳を登らないが、景色がよく記念撮影。

(写真10) (古田ノ森)



- ・ 10時30分、古田ノ森に到着

(写真8) (大日岳)



- ・ 大日岳は鎖場があり、次回は是非登りたい。

(写真11) (小休止)



- ・ 古田ノ森で10分の小休止。(おやつタイム)

(写真9) (釈迦ヶ岳をバックに)



- ・ 正面に釈迦ヶ岳が見えてきた。
ここでは近くに見えるが、この先3つの尾根と谷がある。

(写真12) (バイケイソウ)



- ・ 小休止の横に「バイケイソウ」を発見。
既に枯れたものが多かったが、つぼみのものも、ちらほらあった。
「バイケイソウ」は、毒性が強く、死に至る危険もある毒草です。

(写真 13) (千丈平を通過)



・千丈平はバイケイソウの群生

(写真 14) (大峰奥駈道)



・矢印の方向は大日岳、釈迦ヶ岳は反対側。

(写真 15) (大峰奥駈道の案内)



・弥山まで 9.4km、釈迦ヶ岳まで 0.2km、
深仙宿まで 0.9km、玉置神社まで 31.3km

(写真 16) (頂上への最後の急登)



・残り 200m であるが、最後の急登はつらい...

(写真 17) (釈迦ヶ岳の頂上——その 1)



・11時45分、頂上に到着。
さっそく、記念撮影。

(写真 18) (釈迦ヶ岳の頂上——その 2)



(写真 19) (ランチタイム)



・頂上でのランチタイムは楽しい。
まずは、いつも通りノンアルで乾~杯~♪
しかし、雲行きが怪しいので急いで食事に。

(写真 20) (ドウダンツツジ)



・頂上には「ドウダンツツジ」が咲いていた

(写真 21) (下山)



・かなり雲行きが怪しくなってきたので、急いで下山。(12時15分)

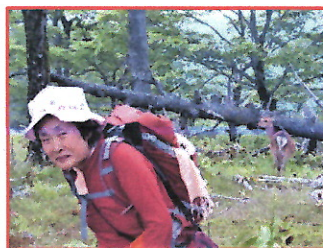
(写真 22) (鹿との遭遇)



(写真 23) (鹿と共に)



(写真 24) 鹿は5~6頭あり、そのうちの1頭は人なれしており、逃げない。
(さて、鹿はどこにいてるでしょうか?)

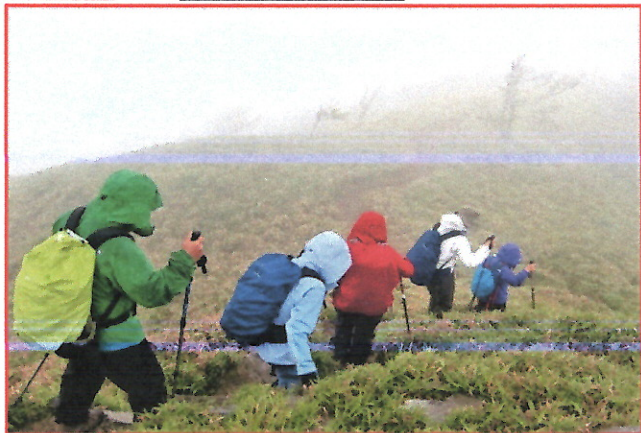


(写真 25) (雨雲が接近)



・鹿と戯れている間、釈迦ヶ岳方面から、雨雲が追いかけてきた。

(写真 26) (雨合羽で下山)



- 雨雲に追いつかれ、急いで雨合羽を着用し、下山へ。

(余談-----その1)

- 黒い雨雲の発生で、女性メンバーが「山では雷が一番怖い」と一声あり。
- すると、男性メンバーは、「家でも、かみさんの雷が怖いで～」と一言。-----同感。

(余談-----その2)

- 雨模様で急いで雨合羽を着用したが、あるメンバーが着用し苦労していた。その人の下山後の一言。
「長い間、雨合羽を来ていなかったの、合羽が小さくなっていた。少し肥えたかな～あ。大き目の合羽に買い替えよう～と!! 出費が嵩むな～あ。」
- その時には言えなかったが、ダイエットの努力も必要では?

(写真 27) (雨雲が引いていく)



- 15分程で雨が止み、雨雲があっという間に去っていった。

(写真 28) (合羽を脱いで下山)



- 雨も止み、合羽を脱いで快適に下山。

(写真 29) (アセビ---馬酔木)



- 雨上がりに、赤くきれいな新芽のアセビが…。馬が食べると毒にあたって酔うような足取りになることから、漢字で馬酔木 (アセビ) と書くようです。

(写真 30) (登山口へ下山)



- 14時45分、無事下山し、思わずバンザイ

[最後に]

- ※・梅雨時期の山行で、天気が目まぐるしく変化したが、適切に雨合羽を着用し安全山行ができた。
- 鹿や植物に遭遇し、今回のテーマである、「自然を満喫し己を悟ろう」を实践し、楽しい会話とともにチームの絆が深まった山行でした。